第十三講・文学的文章⑦

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ぼくがいるのはインドネシアの赤道直下の島、カリマンタン島（ボルネオ島）。

ジャングルの中の小道にたたずみ、木の枝からぶら下がっている体じゅうに赤い毛をはやした動物、オランウータンの母子に①目を奪われている。

ジャングルで暮らしているが、母親にはローズマリー、子どもにはリカという名前がついている。ローズマリーは子どもの頃、［ a ］人間に飼われていたのを保護されて、森に返されたオランウータンだ。

だから今も人間をおそれない。ぼくの目の前で、木の葉をちぎって食べたり、枯れた木の枝を折って中にいるアリをなめとったりしてみせてくれる。

一方、まだ一歳にもなっていないリカは、「絶対に離れるものか！」と決意したかのように、あちこち動きまわる母親の背中にきつく抱きついている。人間を気にするというより、もう必死で、それどころではないという感じ。

そんなリカの努力を知ってか知らずか、ローズマリーは時時、食べる手を止めてリカを引き寄せ、毛づくろいをする。そして、太い枝に腰をかけ、手のようにものをつかむことができる足で体を固定すると、リカにおっぱいを飲ませる。

長くのびた乳首を口の中に入れて、リカはうっとりとした表情を浮かべる。その顔つきは、お母さんに抱かれて［ b ］しきった人間の赤ちゃんと同じだ。

ただ、幸せそうなリカの姿を前に、②ぼくはふと複雑な気持ちになる。

ぼくは目の前にいるリカと同じくらいの年で母親

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

から引き離され、日本に密輸された四頭のオランウータンを知っている。

一九九九年六月、大阪のあるペットショップで起きた事件のことだ。そのペットショップの経営者は逮捕され、四頭は一度は日本の動物園で飼われた後、ふるさとのカリマンタン島に帰ることになった。しかし、もう二度とリカのようにお母さんの体にしがみつくことはできない。

事件を知って、ぼくはさまざまな疑問を抱いた。

オランウータンは絶滅が心配されていて、輸入することは国際的な取り決めで禁止されているそうだ。それなのに、どうしてオランウータンが日本に連れてこられたのか。

そもそも、いったいどんな人がオランウータンを飼いたがっているのか。

最近、日本では「ペットブーム」というのがあって、そのせいでさまざまな動物が日本に持ち込まれているらしいけれど、それは悪いことなのか。

そんなことを考え、いろいろ調べていくうちに、どうしても彼らがやってきたふるさと、インドネシアのカリマンタン島に行かなければという気持ちになった。

ぼくはオランウータンという動物についてあまりたくさんのことを知らない。せいぜい、雑誌や本に書かれていることくらいだ。だから、ジャングルの中でオランウータンが暮らしている姿をこの目で確かめてみたくなったのだ。

そして今、ぼくはカリマンタン島にいる。

ジャングルの中で見るローズマリーとリカの母子の姿は、本当に幸せそうで、だからこそ、母親から引き離されてしまった四頭のことがどうしても頭に浮かぶ。

ただ、③ぼくの目には幸せそうに見えたこの母子も、決して「楽園」に暮らしているわけではないことを知る。

人間のペットだったローズマリーは、④「リハビリセンター」で訓練を受けて、森の中で暮らすことができるようになった。しかし、子育てが上手ではな

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

く、これまでに二回出産（しゅっさん）した赤ちゃんは両方とも死んでしまった。リカは今のところ順調（じゅんちょう）に大きくなっているけれど、これから先はわからない。

　インドネシアでは、ローズマリーのように、人の手に渡（わた）るオランウータンがふえているという。カリマンタン島やお隣（となり）のスマトラ島には、人に捕（と）らえられたオランウータンの子どもを森に帰すために訓練をする「リハビリセンター」がいくつかあるけれど、これらの施設（しせつ）はここ数年、何百頭もの子どものオランウータンで満員（まんいん）になっている。日本からの四頭もこの本が出版（しゅっぱん）される頃（ころ）には、こういった施設で訓練を受けているはずだ。

　結局（けっきょく）、日本で起こっていることは、ふるさとのインドネシアでも起こっていたのだ。

　それも、もっと大がかりな形で。

　当然（とうぜん）、ぼくはその理由を知りたくなった。

　再びいろいろ調べるうちに、その原因（げんいん）には、ぼくたちの国、日本がまた別（べつ）の形でかかわっていることも見えてきた。どうやら複雑にからまりあった網（あみ）の目のように、ぼくたちの社会とオランウータンは関係（かんけい）してきたようだ。たとえば、ぼくたちが日常生活（にちじょうせいかつ）で使っている紙や木材（もくざい）は、もとはといえば、オランウータンの森から切り出された木によって作られているかもしれない。

　そう、⑤オランウータンは、ぼくたち日本人と、知らない間に深いかかわりを持ってきた生き物なのだ。

　今までそれはあまり意識（いしき）されていなかったけれど、そろそろそういったことをきちんと理解（りかい）するべきだ。そして、ぼくたちがオランウータンたちに対して負っている「責任（せきにん）」について、そのうしろにあるもっと大きな問題について、考えなければならない。

（川端裕人（かわばたひろと）「オランウータンに森を返す日」）

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「目を奪われている」とありますが、この時の「ぼく」の様子を説明したものとしてもっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　あまりに衝撃的なできごとにショックを受けている。
イ　とてもほほえましい光景にひきつけられている。
ウ　たいへん珍しい様子に興味をもっている。
エ　ごくありふれたことにたいくつしている。

□

問二　a にあてはまることばとしてもっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　なにげない
イ　はしたない
ウ　気のない
エ　心ない

□

問三　b にあてはまることばとしてもっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　安心　　イ　心配
ウ　興奮　　エ　感心

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　――線②「ぼくはふと複雑な気持ちになる」とありますが、その理由としてもっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　日本で起きたオランウータンの事件を知って、さまざまな疑問が生まれ、気になってきたから。

イ　リカはもう二度とお母さんの体にしがみつくことができないと知っているから。

ウ　人間によって母親からむりやり引き離されてしまった、別(べつ)のオランウータンを思い出したから。

エ　リカが大阪のあるペットショップに連れ去られていたことを思い出したから。

問五　――線③「ぼくの目には……暮らしているわけではない」とありますが、ローズマリーとリカの幸せに不安(ふあん)があるのはなぜですか。

問六　――線④「リハビリセンター」は、何をするところですか。わかりやすく説明(せつめい)している部分を文中から三十二字でさがし、その初(はじ)めと終わりの四字を書きぬきなさい。

～

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　――線⑤「オランウータンは……かかわりを持ってきた」とは、どういうことですか。もっともよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　日本人が、もっともたくさんのオランウータンを密輸して、オランウータンを絶滅させようとしているということ

イ　日本の「ペットブーム」のせいで、さまざまな動物が世界中から日本に持ち込まれて苦しんでいるということ

ウ　日本人が紙や木材を使うために、オランウータンの森を破壊（はかい）しているかもしれないということ

エ　日本は「リハビリセンター」を作るために、多額（たがく）のお金を出しているということ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十三講　文学的文章⑦

一題目

問一　イ
問二　エ
問三　ア
問四　ウ
問五　（例）ローズマリーは子育てが上手ではなく、これまで出産した子は死んでいるから。
問六　人に捕ら　～　練をする
問七　ウ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。